刺し子の技法「一針刺し」の調査

Analysis of the *Sashiko* Sewing Technique "*Hitoharizashi*"

木林　祥子 *1

Shoko Kibayashi *1

要旨

家庭科の製作学習における、新しい刺し子の教材を開発するため、現在多くの支持を得ている「一針刺し（一目刺し）」と呼ばれる技法について調査した。「一針刺し」とは、縦、横、斜めと一方向に刺し進むことで模様を作り出す技法である。一針刺しの古典模様が多く存在している中、現在出版されている書籍では、刺し子作家が考案したオリジナルの一針刺しが多く紹介されている。調査を通して、刺し子作家銀座亜紀枝が1992年に図案を創作するための方眼・斜眼グラフの使用法を紹介したことが、現代の一針刺しの技法発展に大きな影響を与えたと考察した。古典模様をただなぞるだけではない、デザインを創出する楽しさを実感できる一針刺しの技法を生かした教材開発が望まれる。

Key Words :
Sashiko　刺し子　／　Hitoharizashi　一針刺し　／　Home Economics　家庭科
Akie Ginza　銀座亜紀枝　／　Sewing Class　製作実習

＊1 愛国学園短期大学

１．はじめに

近年、出版されている刺し子の書籍には、「一針刺し（一目刺し）」と呼ばれる技法を用いた作品が多く掲載されている。「一針刺し」とは、縦、横、斜めと一方向に刺し進むことで模様を作り出す技法のことで、現在、小・中・高等学校の家庭科の授業でよく行われている「模様刺し」とは異なる技法である。私は、この「一針刺し」の技法を用いた教材を開発することで、刺し子の製作学習がより魅力的になるのではないかと考えている。

例えば、刺しゅうには「自由刺しゅう」と「区限刺しゅう」の技法がある。「自由刺しゅう」とはフランス刺しゅうを代表とする刺しゅうで、布の上に自由な線で図案を描き、糸で絵を描くように縫いとっていく技法である。「区限刺しゅう」とは、クロスステッチ、スウェーデン刺繍を代表とする刺しゅうで、布目を数え、拾いながら規則的な模様を作っていく技法である[1)]。学校で行われている刺しゅうは主に「区限刺しゅう」の技法である。本稿のテーマである刺し子の「一針刺し」は刺しゅうでいえば「区限刺しゅう」の部類に含まれる。クロスステッチやスウェーデン刺しゅうなど「区限刺しゅう」は多くの小・中・高等学校で行われているのであるから、刺し子の「一針刺し」も、まだその技法が知られていないだけで、学校で行うのにふさわしい教材なのではないだろうか。「一針刺し」は単純な技法の繰り返しで、図案を描かなくても、様々な模様を作り出すことができる。児童・生徒の工夫や発想を活かすことができるので、観点別評価がしやすい技法でもある。そこで本稿では、家庭科の製作学習における刺し子の新しい教材開発に向けて「一針刺し」の技法の調査を行った。

２．研究目的

本稿では、家庭科製作学習の題材として、刺し子の「一針刺し（一目刺し）」の教材を提案するために「一針刺し」の技法の調査をすることを目的としている。そのために、まず家庭科製作学習において、現在行われている刺し子学習の教育効果について、先行研究をまとめる。次に、刺し子の「一針刺し」と呼ばれる技法についての文献調査を行い、家庭科の教材として「一針刺し」の技法が大きな可能性を持っていることを明らかにする。

３．製作学習の題材としての刺し子

３－１　刺し子が題材として選択される理由

現在、刺し子は、製作学習の題材として多くの小・中・高等学校で取り入れられている。刺し子が題材として選択される理由は多くある。第一に、刺し子は、家庭科の製作

学習で行われている様々な題材の中では、教師側の準備が少なくて済むことが挙げられる。被服室等の設備や製作のためのスペースもほとんど必要がない。また、製作学習のための時間の確保が難しい中で、教材会社の販売するキットが多種多様に存在しているため、比較的短時間で完成させることができる題材である。

第二に、刺し子は、基礎的な裁縫技術を定着させることができる題材であることが挙げられる。川端他（2012）によると、布を使った製作学習は、「興味関心・技能のレベルに個人差があり、進度のばらつきが大きく、教師にとって指導が難しい単元」であり、「裁縫の経験が少なく技能レベルが低下している現状においては、基礎的内容の指導を充実させ、繰り返しによる技能の定着を図っていく必要がある」と示されている。その上で、刺し子は「なみ縫いの技能の定着には有効」で「生徒自身が学習効果を目で見て認識し、興味関心を維持」でき、「色使いで自分らしさを表現し、工夫によって自然な形で進度調整できる題材」であるとしている[2)]。また、山中（2022）は、刺し子は「出来上がっていく作品から一目瞭然のフィードバックがあり、『刺し子』の図案や縫う量によって挑戦の度合いを調整でき、無心になって集中しやすく、失敗の少ない題材」であるとしている[3)]。

第三に、刺し子は技能面だけでなく、歴史や文化などについて学ぶことのできる題材であることが挙げられる。木林（2010）は、刺し子は、生活文化の原点を体感することができる題材であることを示している。生活文化の原点といっても、そこにはいろいろな意味が含まれる。技法の面からは、最も基礎的な針仕事を体験することができること、リサイクルの原点として、「やりくり」「始末」の技法の原点を学ぶことができることが挙げられる。技法以外の面では、物を大切にする気持ちや、自然と共生し厳しい生活の中でも美しさを求めて生きてきた先人たちの知恵や祈りを学ぶことができる[4)]。

以上のような理由から、刺し子は、製作学習の題材として多くの小・中・高等学校で取り入れられている。

３－２　刺し子の学習効果

山中他（2021）は、「刺し子」学習の制作物に見られる縫製技能を経時的に測定し、「刺し子」学習の根拠となる学習効果として、手指の巧緻性の向上と「刺し子」学習を家庭生活に発展させる姿勢について明らかにしている[5)]。また、山中（2022）は、「刺し子」学習におけるフロー体験の実態を明らかにし、「刺し子」学習は多くの生徒にとってフロー体験となること、フローを体験するほど充実した製作学習になり、多くの学びを得て挑戦意欲や能力が高まることを示している[6)]。さらに山中（2023）は、刺し子製作実習の事例研究から、刺し子が制作技能の向上だけでなく、各人各様の汎用的な能力涵養のための体験となっている可能性について示している[7)]。

山中（2023）は、近年の家庭科製作実習では製作学習のための時間を確保することが

難しく、全員が同じような作品を短時間で完成させることを重視し、児童・生徒がつまづかないような易しい教材が模索されてきたことを指摘し、「今後は一人ひとりが能力と挑戦のバランスを調整できるような製作題材が望まれる」としている。生徒にしっかりと技能を定着させることや挑戦しがいのある題材にじっくりと取り組む製作学習について見直してみることも必要ではないかと考察している[8)]。

以上のように、刺し子は、縫製技能だけでなく多くの学びを得ることができる題材として示されている。しかし、一人ひとりが能力と挑戦のバランスを調整できるよう、題材の見直しについて指摘されている。

４．刺し子の書籍の調査

本稿は家庭科製作学習の教材開発に向けての調査が研究目的であるため、いわゆる「現代刺し子」に焦点を当てる。刺し子は昔から機能だけでなく刺しゅう的な要素があったことが確認されているが、今日における「現代刺し子」は、刺しゅう効果そのものが「刺し子」を表現する対象として引き継がれている[9)]。また、制作教材としての刺し子は、伝統的な刺し子を学習向けにアレンジしている場合や、刺し子による装飾性に重きが置かれた小物作品製作となっている場合が多い[10)]。そのような理由から、1977年から2023年に出版された国立国会図書館が所蔵している刺し子に関する書籍のうち縫製方法が記された書籍を調査対象とした。

刺し子の刺し技法を分類すると大きく二つに分けられる。一つは、津軽こぎんと南部菱刺しに用いられた目塞ぎ刺しの技法で、麻地の粗い地の目を拾って太い糸を通し、地の目の間隙をふさいでいく技法である。もう一つは、ぼろ刺しの技法で、ぼろ布を厚く重ね合わせ、重ねた布がずれないように、地の目とは関係なく、並縫いで押さえるように刺す技法である[11) 12)]。現在、刺し子の縫製方法を記している書籍において紹介されている「模様刺し」と「一針刺し（一目刺し）」の技法のルーツはぼろ刺しの技法である。そこで、1977年から2023年に出版された刺し子の縫製方法が記された書籍のうち、こぎん刺しと菱刺しに関する書籍は調査対象から外した。調査対象とした書籍を出版順にまとめて表にし（表1）、近年の傾向を考察するため2023年から5年ごとにさかのぼり冊数を合計した（表2）。

４－１　一針刺しの名称について

まず、本稿タイトルである「一針刺し」の名称について確認しておく。「一針刺し」は、調査した書籍において「一目刺し」と紹介されていることが多い。「一針刺し」および「一目刺し」という名称はいつ登場したのか調査した。

表1　刺し子に関する書籍一覧

	タイトル	執筆者	出版社	出版年	月
1	刺し子	吉田英子	文化出版局	1977	4
2	刺し子		日本ヴォーグ社	1979	4
3	裂の手芸	ウーマン編	講談社	1979	6
4	美しい刺し子	宮崎恵美子	日本ヴォーグ社	1979	8
5	暮らしに生きる刺し子	千葉意志、菊地泰司	マコー社	1980	6
6	刺し子百様	吉田英子	文化出版局	1981	2
7	刺し子づくし	斉藤禮	文化出版局	1981	9
8	新しい刺し子のすすめ	宮崎恵美子	マコー社	1982	10
9	かんたん刺し子の小物集	吉田英子	文化出版局	1986	2
10	刺し子の袋	斉藤禮	文化出版局	1987	3
11	刺し子		日本ヴォーグ社	1987	5
12	刺し子のドレスと小物	銀座亜紀枝	マコー社	1987	9
13	刺し子の本		雄鶏社	1988	4
14	刺し子	千葉意志、菊地泰司	マコー社	1989	10
15	やさしい刺し子	斉藤礼	日本放送出版協会	1991	7
16	刺し子の技法	銀座亜紀枝	美術出版社	1992	10
17	刺し子	吉田英子	雄鶏社	1993	12
18	楽しい刺し子	吉浦和子	日本ヴォーグ社	1997	5
19	花ふきん78		日本ヴォーグ社	1997	7
20	新刺し子		日本ヴォーグ社	1998	1
21	やさしい刺し子		日本ヴォーグ社	1998	4
22	刺し子の袋もの	吉田英子	雄鶏社	1998	11
23	刺し子を楽しむ		ブティック社	1999	7
24	シンプル仕立ての新しい刺し子		雄鶏社	2001	12
25	刺し子のこもの		ブティック社	2002	7
26	おしゃれな刺し子	金沢京子	日本ヴォーグ社	2002	8
27	刺し子	竹田藍	日本ヴォーグ社	2003	11
28	刺し子		ブティック社	2004	7
29	カンタン、カワイイ刺し子雑貨		雄鶏社	2004	7
30	暮らしに生きる刺し子	鈴木満子、林ことみ	文化出版局	2005	12
31	小さな刺し子		雄鶏社	2006	6
32	刺し子の伝統模様		ブティック社	2006	6
33	刺し子の本		雄鶏社	2007	6
34	刺し子でかわいい手づくり小物	サルビア編	PHP研究所	2007	11
35	かわいい花さしこ	小野崎秀子	辰巳出版	2008	1
36	刺し子で遊ぶ	銀座亜紀枝	マコー社	2008	4
37	刺し子の花ふきん		雄鶏社	2008	4
38	刺し子の詩季	百瀬陽子	アイワード（印刷）	2008	5
39	かんたん手ぬい仕事刺し子		日本ヴォーグ社	2008	6
40	かわいい刺し子のこもの		ブティック社	2009	6
41	日々の暮らしに刺し子の小物	金沢京子	日本放送協会	2009	11
42	刺し子の雑貨	小野崎秀子	辰巳出版	2010	1
43	刺し子こもの		学研パブリッシング	2010	5

	タイトル	執筆者	出版社	出版年	月
44	刺し子こもの		ブティック社	2010	8
45	はじめての刺し子		日本ヴォーグ社	2012	2
46	嫁入り道具の花ふきん	近藤陽絽子	暮らしの手帖社	2013	11
47	刺し子のふきん		主婦と生活社	2013	12
48	美しい刺し子	斉藤禮	成美堂出版	2014	4
49	ちくちく楽しむ刺し子のかわいい花ふきん	吉田久美子監修	日本ヴォーグ社	2014	7
50	林ことみの刺し子ノート	林ことみ	筑摩書房	2014	7
51	刺し子のふきんと小物		ブティック社	2014	8
52	刺し子の文様		ブティック社	2015	3
53	ちくちく、かわいい刺し子の花ふきんと小もの	吉田久美子監修	日本ヴォーグ社	2015	8
54	刺し子のふきんと小物		ブティック社	2015	8
55	嫁入り道具の花ふきん教室	近藤陽絽子	暮らしの手帖社	2015	10
56	毎日が楽しくなる刺し子のカワイイ！ふきん		アップルミンツ（E&Gクリエイツ）	2016	3
57	東北の刺し子		日本ヴォーグ社	2016	10
58	刺し子の手づくりこもの		ブティック社	2017	6
59	刺し子のふきん		主婦と生活社	2017	6
60	刺し子の手しごと	日本文芸社編	日本文芸社	2017	10
61	一目刺しの刺し子のふきん	安蒜綾子	主婦と生活社	2018	2
62	刺し子を楽しむこもの		ブティック社	2018	5
63	がなはようこの四季の花ふきん	がなはようこ	日本ヴォーグ社	2018	6
64	いちばんよくわかる刺し子の基礎		日本ヴォーグ社	2019	2
65	刺し子の愉しみ	日本文芸社編	日本文芸社	2019	5
66	刺し子の文様とこもの		ブティック社	2019	8
67	色と模様を楽しむ刺し子の小物		ブティック社	2019	9
68	刺し子の小ものとお繕い	飯塚咲季	日本ヴォーグ社	2019	11
69	一目刺しの刺し子のふきん続	安蒜綾子	主婦と生活社	2020	4
70	ちくちく楽しむ糸あそび日々の刺し子こもの		ブティック社	2020	5
71	はじめての手づくり刺し子こもの新版		学研プラス	2020	6
72	カラフルで愛らしい刺し子のふきんと小物	sashikonami	日本ヴォーグ社	2020	11
73	刺し子の花ふきん実物大図案10		日本ヴォーグ社	2021	2
74	刺し子デザイン帖	AYUFISH int.	日本ヴォーグ社	2021	8
75	一目刺し・くぐり刺し・模様刺し自由に楽しむ刺し子のふきん		ブティック社	2021	11
76	まいにち刺し子	sashikonami	日本ヴォーグ社	2021	11
77	すぐに使える実物大刺し子パターン		日本ヴォーグ社	2022	2
78	刺し子の手習い帖	いからしさとみ	ナツメ社	2022	5
79	刺し子図案集50	sashiko design	主婦と生活社	2022	11
80	刺し子のきほん	いちきゆきこ	主婦の友社	2022	12
81	ハギレが楽しい刺し子の小物	sashikonami	日本ヴォーグ社	2023	1
82	刺し子を楽しむこもの		ブティック社	2023	1
83	刺し子の技法	銀座亜紀枝	主婦の友社	2023	1
84	刺し子の花ふきん復刻版	主婦の友社編	主婦の友社	2023	3
85	かわいい刺し子の図案帖		日本ヴォーグ社	2023	3
86	刺し子と暮らす	実乃莉	グラフィック社	2023	4

刺し子の縫製方法について初めての書籍が出版されたのは1977年である。1977年に出版された吉田英子『刺し子』では、「さらしのふきん」の作り方として、一針刺しの技法を用いた「白刺し」「矢羽根」「柿の花」「米刺し」「亀の甲」」「十字刺し」の刺し方が紹介されているが、技法の名称は書かれていない。作り方は、「模様の一辺がそのまま一針になります。縦、横、斜め、必ず同一の大きさの目を拾って刺しますと、きれいに刺しあがります」とある[13)]。

出版年が古い順にみて、次に一針刺しの技法が登場するのは、1979年『裂の手芸』である。刺し子の図案集として29種類の図案が紹介されており、そのうちの9種類が一針刺し（くぐり刺しを含む）の図案の紹介である。しかし、ここでも名称については示されていない。「長短刺し」の説明に「長い針目と短い針目の組み合わせでできる模様です。このように全面を刺しつくす刺し子を『べた刺し』といいます」とある。「笹刺し」「矢羽根刺し」「十字花刺し」「飛び三角刺し」の説明にも「べた刺し」とある。また、刺し子の解説のページにはべた刺しの説明として、「べた刺し（地刺し）とは、布幅を往復する横刺しと、縦糸に副う縦刺しとにわかれるが、縦に刺すのは当然骨の折れる技法である。また、布目に関わりなく、斜線や曲線に刺す方法もある。この三つの刺し子の技法が基礎になり、粗い縫い目と密な縫い目を組み合わせると自然に模様になってくる」と示されている[14)]。1980年『暮らしに生きる刺し子』においても、「米縫い」「笹刺し」の刺し方が紹介されているが、名称については示されていない。

「一目刺し」の名称が初めて登場するのは、1981年吉田英子『刺し子百葉』である。「一目刺しの布巾」「一目刺しのポシェット」「一目刺しの花びん敷」の作り方が写真とともに記されている。「一目刺し」の模様として「段つなぎ」「柿の花」「矢羽根」「麻の葉」「十字花刺し」「変り十字花刺し」の図案と刺し方が紹介されている。「段つなぎ」は「基本の一目刺し」と説明されている。

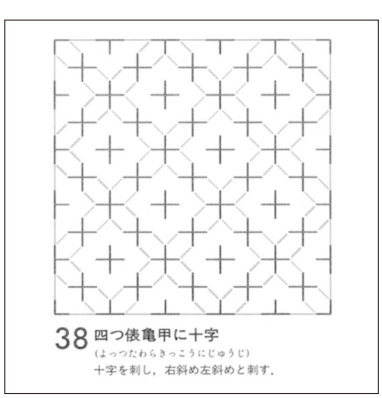

図1　一針刺しの図案例 注1
（出典）銀座亜紀枝『刺し子の技法』

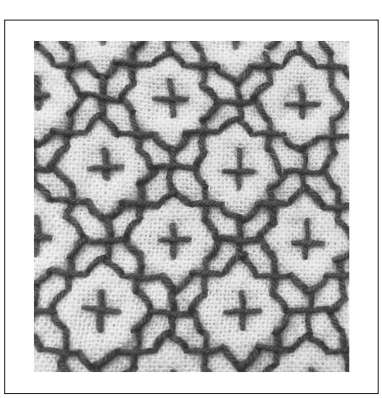

図2　一針刺しの例

同年に出版された斉藤禮『刺し子づくし』では、「十字花刺し」「角十つなぎ」ほか2種類の一針刺しの作品が紹介されているが、技法の名称については書かれていない。「十字花刺し」の刺し方は、「この刺し模様は、これまで説明してきた模様とはちょっと異なり、1針1針の組み合わせで作ります」と説明されている[15]。また、1982年宮崎恵美子『新しい刺し子のすすめ』では、3点の作品で一針刺しの技法が紹介されているが、名称は書かれていない。

再び「一目刺し」の名称が登場するのは1986年吉田英子『かんたん刺し子の小物集』である。ポシェットの模様として、「一目刺しの格子」「一目刺しの矢羽根」「一目刺しの麻の葉」が紹介されている。一方、1992年銀座亜紀枝『刺し子の技法』では、「一目刺し」ではなく「一針刺し」という名称が使用されている。

以上を執筆者別にまとめると、1977年から2000年までの間に出版された書籍の執筆者7人のうち、「一目刺し」という名称を使用している執筆者は吉田英子、斉藤禮の2名であり、他の5名は使用していない。吉田英子は、1977年『刺し子』では使用していなかったが1981年『刺し子百葉』では使用していた。斎藤禮は、1981年『刺し子づくし』では、「一目刺し」という名称は使用しておらず1987年『刺し子の袋』では使用している。したがって、最初に「一目刺し」という名称を使用したのは吉田英子であり、書籍中での使用開始時期は1981年であることがわかった。また、「一針刺し」という名称を使用しているのは銀座亜紀枝で、1992年の書籍において「一針刺し」という名称の使用が確認された。

この7名の刺し子作家以外で、2000年から2023年に書籍を出版した刺し子作家18名のうち、16名が一針刺しの技法を紹介しており、そのうち12名は「一目刺し」という名称で紹介している。3名は技法の名称は記していない。「一目刺し」とは違う名称で紹介しているのは近藤陽呂子である。近藤は2013年、2015年『嫁入り道具の花ふきん』『嫁入り道具の花ふきん教室』において、「地刺し」という名称で紹介している。その他、日本ヴォーグ社『東北の刺し子』（2016）では、「5mm方眼を描いてその線に沿って、横・縦・斜めと刺して模様を描く庄内刺し子」と紹介されている[16]。

以上、名称についてまとめると、刺し子の書籍において、「一目刺し」という名称は1981年から使用されていること、最初に使用したのは吉田英子であること、その後多くの刺し子作家が「一目刺し」の名称を継承し「一目刺し」という名称が定着していること、しかし、書籍によっては、「べた刺し」「一針刺し」「地刺し」「庄内刺し」と示されていることがわかった。

では、刺し子の研究者たちは一針刺しの技法をどのように呼んでいるのか。1982年山本昭子・山田いずみは、「東北地方の刺し子の研究（その1）」において、一針刺しの「菱刺し」の写真を掲載し、その説明として、「（この場合の菱刺しとは、太木綿糸でタテヨコに刺して菱型の模様にしたもので、南部の『菱刺し』とは別のものである）」[17]

と注意書きしているが、とくに名称については書かれていない。

徳永幾久は1989年『刺し子の研究』において、上杉花雑巾の刺しに使われている刺し子の技法と文様の名称を8ページにわたる多くの図とともに紹介している。花雑巾に使用されている刺し子の技法には、「目落し刺し」、「糸通し刺し」、「縫い刺し」の3種類があり、「目落し刺し」はさらに基本3種類とその応用が示されている。目落し刺しの応用として「目ずれ刺し」が紹介されており、「『目ずれ刺し』は、目落しの針目を左右に一目ずつずらすことによってできる、いわゆる刺し縫いであり、目ずれのずれ方と、表目・裏目の大きさにより、色々な面構成ができ、多様な文様が作られる。コギン文様と造形的構成は全く同じであるが、地の目を拾うことができないので、コギンのように定規格にするのはむずかしい」とある[18)]。『刺し子の研究』においては、「一目刺し」という名称は使用されておらず、「目ずれ刺し」として紹介されていることがわかる。

その他の刺し子の先行研究においても「一目刺し」という名称は見当たらない。これらの資料から、「一目刺し」という名称は歴史的に代々受け継がれてきた名称ではなく、縫製方法が記された刺し子の書籍から生まれ定着していった名称であることがわかる。

さて、「一目刺し」と呼ぶことになった根拠については、どの書籍においても示されていない。筆者は、縫製方法の違いを区別するために用いられた名称であったのではないかと推測する。初めて「一目刺し」という名称が使用された『刺し子百葉』において紹介された「段つなぎ」「柿の花」「矢羽根」「麻の葉」の模様は、一目刺しだけでなく、細かいなみ縫いの連続で模様を形作る「模様刺し（縫い刺し）」としても多く紹介されている。そこで、縫い方の説明をする際に、細かいなみ縫いで模様を作る「模様刺し」ではなく、模様の一辺が一目になっていることを分かりやすくするための区別として「一目刺し」としたものが定着したのではないかと推測する。

一方、本稿のタイトルで使用している「一針刺し」は銀座亜紀枝『刺し子の技法』で紹介している名称である。銀座はその根拠として「編物」と「縫物」の技法の違いを挙げている。編物の作り方は、どの本を開いても一目一目とあり、「縫物」は一針二針である。刺し子は運針であり、編物とは技法そのものが違う。よって、縫物の技法であるから「一針刺し」としていると示している[注2]。

刺し子衣類を全国地域別に分類整理した徳永は、刺しものに関して、「同じ形のものでも地域により、その他諸条件が加わることにより、その呼称まで変化するという特殊性を抱えている。刺しの種類と組み合わせにより、更にまたその用途と呼称が変化するというように、一般的呼称のほかに特殊なものが地域ごとに雑多に存在し、その分類は複雑を極めるものである」と述べている[19)]。調査した書籍において、「べた刺し」「一目刺し」「一針刺し」「地刺し」「庄内刺し」「目落し刺し」「目ずれ刺し」等、様々な名称が存在する技法であるが、本稿においては「一針刺し」の名称を使用することとする。

４－２　近年の流行について

1977年から2023年に出版された国立国会図書館が所蔵している刺し子に関する書籍のうち縫製方法が記された書籍の調査（表2）によると直近の5年間の出版数が23冊と非常に多いことがわかった。さらに、これらの書籍で紹介されている作品や図案に占める一針刺しの割合を調査してみた。調査では、掲載されている作品や図案を「模様刺し」、「一針刺し（一目刺し）」、「こぎん刺し含むその他」の3つに分類した。「一針刺し（一目刺し）」には「くぐり刺し」も含めた。分類に際して、技法の名称が示されていない作品や図案については、左右や上下の針目において規則性がないものは「模様刺し」に加えた。規則性があるものでも上下の針目の間隔がなく、上下の針目が沿うようになっているものに関しては、こぎん刺し・菱刺しとの区別がつきにくいため、「こぎん刺し含むその他」に加えた。

以上のように分類したところ、近年は一針刺しの占める割合が上昇していることがわかる。直近5年間に出版された23冊のうち5冊の書籍には、タイトルやサブタイトルに「一目刺し」が使われていた。また23冊のうち17冊は表紙のメイン作品に一針刺しの作品を使用している。作品数に占める一針刺しの作品の割合が30％を超える書籍も17冊であった。

2014年から2018年の5年間に出版された16冊のうち、タイトルおよびサブタイトルに「一目刺し」が使用されている書籍は2018年出版の2冊であった。それ以前にはタイトルおよびサブタイトルに「一目刺し」は見当たらない。このことから、2018年以降に一針刺しが流行していることがわかる。ただし、「一目刺し」の名称を使用してはいないが、2013年、2015年出版の近藤陽絽子『嫁入り道具の花ふきん』『嫁入り道具の花ふきん教室』が流行の先駆けとなっていると思われる。

表2　刺し子に関する書籍の5年ごとの分析

出版年	冊数	作品数に占める模様刺しの割合(%)	作品数に占める一針刺しの割合(%)	一針刺しの割合が30%を超える書籍の数と割合（%）
1977～1983	8	92.0	8.0	1 （12.5）
1984～1988	5	88.2	10.6	1 （20.0）
1989～1993	4	85.4	15.6	1 （25.0）
1994～1998	5	90.0	10.0	1 （20.0）
1999～2003	5	98.2	1.8	0 （0）
2004～2008	12	83.6	16.4	3 （25.0）
2009～2013	8	79.0	20.0	2 （25.0）
2014～2018	16	62.0	29.0	5 （31.3）
2019～2023	23	48.4	48.0	17 （73.9）

さて、刺し子の書籍に関する調査の先行研究には、杉野公子「刺し子－変化する伝統－」（2008）がある。杉野は、1977年から2008年の刺し子に関する書籍53冊のうち、縫製方法が記された書籍40冊を調査している。調査では、刺し子のオリジナル柄について、出版初期の段階から、オリジナルの柄が発表されてはいるが、柄というよりは直線の運針を利用したデザインが多く、ひとつの作品に多くの色糸を使用することでオリジナル性を高めている場合が多いことを指摘している。また、1990年代後半の書籍では、執筆者欄が個人名ではなく出版社名になっている傾向について述べ、1990年代後半までの書籍には執筆者自身の刺し子に対する熱い思いを作品から感じ取ることができたが、出版社が書籍を出版する形になった結果、作家や研究者の個性より、消費者の好みを重視した作品が紹介されるようになったと考察している[20)]。

では、杉野が指摘、考察した点について、2009年以降の刺し子の書籍にはどのような傾向がみられるのか。第一に、刺し子のオリジナル柄について、一針刺しの技法においてオリジナルの創作模様が紹介されるようになった傾向が挙げられる。杉野が調査した1977年から2008年の書籍における作品は「模様刺し」の作品が中心であった。「模様刺し」では、細かいなみ縫いの模様でオリジナル性を表現したり、ひとつの作品に色糸を使用することでオリジナル性を高めたりしている場合が多かった。しかし、2018年以降の一針刺し流行にともない、オリジナル性は大きく変容する。一針刺しは、縦、横、斜めの組み合わせで様々な図案を描くことができる。針目を増減したり、位置をずらしたり、さらにその上に糸をくぐらせることで、アレンジは無限に広がっていく。そこで様々なオリジナルの模様が生み出される。書籍のタイトルに初めて「一目刺し」の名称を入れた安蒜綾子は『一目刺しの刺し子のふきん』（2018）において、伝統模様の作品はなく、「ダイヤモンド」「りんご」「きのこ」「水芭蕉」「北海道」「つるバラ」「ボタン」「蛇口」「こけし」「ホークス」などの創作模様を紹介している。2020年には『一目刺しの刺し子のふきん続』が出版され、新たな創作模様が紹介された。他の刺し子作家も2018年以降多くの書籍で、一針刺しのオリジナル創作模様を紹介している。

第二に、杉野が指摘した、1990年代後半の書籍では執筆者欄が個人名ではなく出版社名になっている傾向について、直近の5年間では、逆に執筆者欄が出版社名から個人名になっている傾向が読み取れる。これは、一針刺しの流行と関係していると考察できる。先に述べたように、一針刺しは縦、横、斜めの組み合わせや、針目の増減、糸のくぐらせ方で、アレンジは無限に広がっていく。その技法によってオリジナルの創作模様を発表する刺し子作家が新たに多く誕生したのである。この「デザインの創出」こそ、一針刺し人気の理由といえるのではないだろうか。

４－３　デザインを創出する楽しさ

一針刺しの技法における、刺し子作家によるオリジナルの図案について調査をしたが、古典模様には同じ図案でも様々なバリエーションがあるため、どれがオリジナルの図案であるか判別がつかないものがある。判別できるもので最も古いものが1979年『裂の手芸』において銀座が考案した「あじさい刺し」である。一針刺し（くぐり刺し）の創作模様である「あじさい刺し」の刺し方について説明し、「伝統の割りつけ模様以外にこうした新しい模様をお作りになるのも楽しいことです」と紹介している[21)]。長く受け継がれてきた古典模様に劣らない完成されたデザインの創作図案を生み出し、「新しい模様をお作りになるのも楽しい」と、刺し子が古典模様の伝承や模倣だけにとどまる必要がないことを提示した。さらに銀座は1992年『刺し子の技法』に、一針刺しの図案を55種類紹介しているが、そのうち30種類を銀座の創作図案として発表している。さらに、この書籍において、一針刺しの図案の創作方法を紹介している。

当時の一針刺しの技法では、「柿の花」「十字花刺し（四つ俵亀甲に十字）」「矢羽根」といった古典模様を模倣し美しく刺すための手段として方眼を引くことはあっても、自分で図案を考案、創作するために方眼を引くという発想はなかったのではないだろうか。『刺し子の技法』には「刺し子模様製図用方眼紙」「刺し子模様製図用斜眼紙」が添付されており、一針刺しの刺し方の説明欄には次のようにある。「（略）昔のものは、ごく限られたパターンのみです。そこで私は、縦・横のぐし縫いに加えて斜め縫いや、5mm針、1cm針と針目をリズムに乗りながら変えて、たくさんの新しい模様を生み出しました。そのための方眼、斜眼の目のプリント布（洗えば消える）を作りましたので、大変やさしくきれいに刺すことができます。（略）この一針刺しは、一針が1～1.5cm位迄大きくして、2本どりで刺しても、大胆で美しいものです。応用してみましょう」と記されている[22)]。

現代の一針刺し人気を支える「デザインを創出する楽しさ」に、銀座が与えた影響は大変大きいと考察する。なお、銀座亜紀枝『刺し子の技法』は現在も多くの支持を集めており、復刻版が2023年に出版されている。

５．刺し子の教材の調査

刺し子が、製作学習の題材として多くの小・中・高等学校で取り入れられている理由の一つに、教材会社が様々な刺し子製作キットを販売していることが挙げられる。2023年度の家庭科教材カタログを調査したところ、すべての教材会社が刺し子製作キットを販売していた。キットの題材は、コースター、ランチョンマット、花ふきん、エプロン、クッション、巾着袋、ティッシュケースカバー、ウォールポケット、ブックカバー、箸

入れ、トートバッグなどである。仕立て済みで刺し子だけを学習する教材も多く見られる。A社「かんたん創作刺し子」キットは、同じ材料で、ウォールポケット、ペーパーホルダー、ミニトートバッグ、ナップザック、手提げ袋、弁当袋など10点の中から自由に選んで製作できるようになっており、生徒の主体性や意欲を高める工夫をしている。B社は藍木綿を使用したキットを多数揃え、「日本のものづくり」ならではのこだわりを提案している。

キットには主に、プリント済みの布、刺し子針、刺し子糸、作り方説明書やワークシート、その他製作に必要なボタン、ひも、ゴム等の付属品がセットされている。プリント済みの布には、様々な模様が印刷されている。伝統的な幾何学模様が印刷されたもの、現代風の模様が印刷されているものなど様々である。プリント布は洗うと消える仕様になっているため、印刷された模様をすべてなぞってもいいし、部分的になぞってもよい。また児童・生徒のオリジナルの図案を書き足して刺し子することも可能である。

さて、教材で扱われている刺し子にはどのような技法が使用されているのか。こぎん刺しを除く刺し子についてみてみると、7社のうち5社は、細かいなみ縫いで模様を作る「模様刺し」の技法のみを扱っていた。「一目刺し」のキットを販売していたのは、2社であった。

C社「刺し子一目刺し花ふきん」は2枚仕立てでつくるふきんのキットで、図案は2種類あり、どちらもプリント済みの布を使用している。D社「一目刺しスターターキット」はコースターが2枚作れるキットであり、同様に刺し子柄がプリント済みであった。D社のカタログには手芸会社のカタログもセットされており、手芸会社のカタログには、「一目刺し」のキットが多数掲載されている。キットの題材は「花ふきん」「コースター」「バッグ」「ポーチ」などであった。ほぼすべてのキットは刺し子柄がプリント済みであった。

以上のように、一針刺しのキットは模様刺しのキットに比べて、種類が非常に少ないことがわかる。教材会社でない、手芸会社のキットには「一目刺し」のキットが数多くあるが、花ふきんなど、学校で行うには時間がかかりすぎるキットである印象を受けた。また、ほぼすべてのキットは刺し子柄が印刷されている。これでは、せっかくの一針刺しの楽しさを実感できないのではないだろうか。一針刺しの魅力の一つに、簡単な技法を繰り返しているうちに模様が浮かび上がってくる驚きを挙げることができるが、もともとすべての模様が印刷されていれば、それをただなぞるだけなので、新鮮な驚きは生まれない。また、少し針目に変化を与えたり、糸をくぐらせたりで、創作の楽しさを味わうのも一針刺しの魅力であるが、現在販売されているキットでは自分でデザインを創作する楽しさを伝えることができないように思う。唯一、一針刺しの魅力を実感できる材料として、手芸会社が販売している「一目刺し用ガイド付き木綿」が挙げられる。ドッ

トをガイドにして、自由な模様を作ることができ、3mm、5mm、さらに斜方眼ドットの生地が販売されている。1クラス40人近い児童・生徒に一斉に指導する教員の立場であれば、ドットガイドのみの生地で刺し子を指導するというのは不可能と思うかもしれない。しかし、クロスステッチやスウェーデン刺しゅうは、布に図案を描くことなく、一斉に指導することができている。これらの指導例を参考にすることで、一針刺しの魅力を存分に伝えることのできるキットを開発することも可能なのではないだろうか。

山中は、近年の家庭科製作実習では、全員が同じような作品を短時間で完成させることを重視し、児童・生徒がつまづかないような易しい教材が模索されてきたことを指摘し[23]、生徒にしっかりと技能を定着させることや挑戦しがいのある題材にじっくりと取り組む製作学習について見直してみることも必要ではないかと考察している[24]。一針刺しが支持されている現在、家庭科製作学習のための刺し子の教材として、一針刺しの技法こそ、挑戦しがいのある題材となり得るのではないだろうか。

６．まとめ

本稿では、家庭科の製作学習におけるより魅力的な刺し子の教材を提案するため、現在多くの支持を得ている一針刺しの技法についての調査結果を報告した。調査は主に、1977年から2023年に出版された、刺し子の縫製方法が記されている書籍を通して行った。調査の結果、近年、刺し子の技法の中でも一針刺しの技法について紹介している書籍が多く出版されていることがわかった。また、一針刺しの技法を、目落し刺し、目ずれ刺し、べた刺し、一目刺し、地刺し、庄内刺しと呼ぶ場合も見られた。

一針刺しは、縦、横、斜めと一方向に刺し進むことで模様を作り出す技法である。上杉花雑巾にもみられる技法で、伝統的な模様が数多く引き継がれている。しかし、現在出版されている書籍では、伝統模様だけでなく、刺し子作家が考案、創作した図案が多く紹介されている。一針刺しは、針目を増減したり、位置をずらしたり、さらにその上に糸をくぐらせることで、アレンジは無限に広がっていく。伝統模様を刺しているうちに新たな模様を創作したくなるのが一針刺しの魅力ともいえる。近年、オリジナルの図案を発表し書籍を出版する新しい刺し子作家が多く誕生している。

一針刺しの技法の発展について調査する中、刺し子作家銀座亜紀枝が1992年に図案を創作するための方眼・斜眼グラフの使用法を紹介したことが、現代の一針刺しの技法発展に大きな影響を与えたと考察した。古典模様を模倣し美しく刺すために方眼を使用するだけでなく、新しい図案を創り出す方法として方眼の使用を紹介したことは斬新な試みであったといえる。

古典模様をただなぞるだけでない、この一針刺しの技法こそ、新しい刺し子の教材と

して魅力を発揮するのではないだろうか。より挑戦しがいのある刺し子の製作学習実現のため、一針刺しの教材開発に寄与していきたい。

7．おわりに

本稿では、「現代刺し子」に焦点を当てたため、一針刺しの歴史や、それぞれの地域で伝わる一針刺しの特色、一針刺しが持つ模様刺しとは違う役割や必然性などについては調査対象外とした。今後さらに文献を調べていく必要がある。

一針刺しの教材開発に向けて、生活やものづくりの学びネットワーク東京実行委員会主催小中高家庭科教員対象実技講習会において教材開発を行った。引き続き、一針刺しの魅力を伝えることのできる教材開発に向けて研究を重ねていきたい。

謝辞

刺し子のご指導をいただいております銀座亜紀枝先生に感謝申し上げます。また、銀座先生が考案された、一針刺しの新しい模様を生み出すための方眼・斜眼プリント布を、教材開発に向けて使用することのご許可をくださいました銀座先生および株式会社自然堂坂本大策社長に感謝申し上げます。

教材開発に向けてたくさんのご助言をいただいております生活やものづくりの学びネットワーク東京実行委員長であり本学特任教授でいらっしゃいます亀井佑子先生、および、実行委員の大久保浩美先生、田代郁子先生、その他実行委員の先生方に感謝申し上げます。

注

注1　古典模様は地方によって呼び方が違うことがある。また、同じ名前の図案でもバリエーションがあったりする。図1の図案は、「四つ俵亀甲に十字」とあるが、「十字花刺し」と呼ばれることが多い。書籍によっては「枡刺し」、「花刺し」、「花十字」と呼ばれている。また、「花刺し」と呼ばれる図案は多い。

注2　「一針刺し」の名称の根拠について、銀座亜紀枝先生よりいただいた直筆のコメントからの引用である。

文献

1）刺繍事典．グラフ社．1982．p.78，84

2）川端博子，鳴海多恵子.「刺し子」学習の効果と指導に関する一考察．日本家庭科教育学会誌．2012，54(4)，p.255.
3）山中大子．製作学習における楽しさや喜びの教育的意義－「刺し子」学習におけるフロー体験－．日本家庭科教育学会誌．2022，64(4)，p.279.
4）木林祥子．家庭科教育における国際理解教育の展開－生活文化の歴史的理解からのアプローチ－．日本福祉大学大学院国際社会開発研究科修士論文．2010.
5）山中大子，寶達佑美，川端博子.「刺し子」学習における裁縫技能実態と学習効果－製作物の経時的観察と質問紙調査による製作学習過程の分析－．日本家庭科教育学会誌．2021，64(1)，pp.23－33.
6）前掲2．pp.278－287.
7）山中大子．製作実習における汎用的な能力の涵養－刺し子製作実習の事例研究より－．学校教育学研究論集．2023，48，pp.57－69.
8）前掲7．p.67.
9）杉野公子．刺し子－変化する伝統－．杉野服飾大学・杉野服飾大学短期大学部紀要．2008，7，pp.8－9.
10）前掲5．p.23.
11）徳永幾久．刺し子の研究：民族服飾文化．衣生活研究会．1989．pp.80－89.
12）玉田真紀．東北の衣生活で育まれた刺し子の文化．デザイン学研究特集号．1997，5，1，pp.22－23.
13）吉田英子．刺し子 手づくりの暮らし．文化出版局．1977，pp.51－52.
14）ウーマン編．裂の手芸．講談社．1979，pp.79－83.
15）斉藤禮．やさしい手芸 刺し子づくし．文化出版局．1981，p.54.
16）東北の刺し子．日本ヴォーグ社．2016，p.7.
17）山本昭子，山田いずみ．東北地方の刺し子の研究（その1）－刺し子，こぎん刺し，菱刺しについて－．生活科学，13，2，p.176.
18）前掲11．pp.123－133.
19）前掲11．pp.88－89.
20）前掲9，pp.8－9.
21）前掲14．p.83.
22）銀座亜紀枝．新技法シリーズ 刺し子の技法．美術出版社．1992，p.75.
23）前掲7．p.67.
24）前掲3．p.285.